

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.72 2011年8月号

先日のサッカー女子ワールドカップでの「なでしこジャパン」の活躍はすごかったですね。競技人口が違いますから単純な比較はフェアじゃないと思いますが、ワールドカップにおける男子の日本代表チームの最高成績がベスト16ですから、優勝というのがいかにすごいことわかります。

なでしこジャパンの優勝をたたえた某国会議員さんが、以前、次世代スーパーコンピューターに関わる「事業仕分け」で、「2位じゃだめなんですか？」という発言をしたことが話題になったり、また、「ナンバーワンじゃなくオンリーワン」という歌詞の「世界に一つだけの花」という歌がだいぶ前にヒットしたりしましたが、やはり、1番をめざしてがんばる姿に、人は感動せずにはいられないものだと、つくづく思いました。

経営がなりたたなくなつた会社を次々と買収し、利益の出る会社へ再生させる手法で注目された日本電産という会社の永守社長は、子供のころから「1番以外はビリだ」と考え、常に1番をめざして行動していたそうです。実際、現実の世の中は競争であふれていますから、1番をめざすかどうかはともかく、競争に勝ち抜いていかないと生きていくことができません。これについては以前の「毎日楽しく」でも、「成功するために一生懸命働くのではなく、生きていくために誰にも負けない努力で働く」という稲盛和夫さんの言葉を紹介したことがあります。自然界に厳然と存在する厳しい生存競争という原理原則が変わらない限り、こうした社会も変わることはないのかもしれませんが。そういう意味では、順位をはっきりとつけない「ゆとり教育」で育つた子供たちは、実社会に出たとき、きつととまどうことでしょうね。

私は、1番以外はビリと同じ、というふうには考えていませんが、それをめざして努力する姿勢は賞賛されるべきだと思っています。1番をめざした結果のビリと、最初から努力をしなかった結果のビリとが同じ価値とは思えないからです。

なでしこジャパンも、「ナンバーワン」をめざしていなかったら、これほど日本中を感動させることはなかったと思います。「オンリーワン」は最初からめざすものではなく、努力をした結果敗れた人をたたえるための言葉なのかもしれません。

